

平成二十五年三月十八日

豫期せずして知合ひに遭ふこと稀にあり。この現象、海外に在る時よく生ずるを奇異に思ふ。

出張にて紐育五番街を歩きたる時、いきなり右肩を叩く者あり。犯罪多き地なれば身構へて向き直れば日本人、笑みつつ我の名を呼び高校三年の時、同級の何某と名乗る。往時の教室内事件を懐しげに語れども、我には更に記憶無し。彼も我も仕事途上、夕刻の再會を約して別る。夜、日本料理屋にて杯交はすうち、徐徐に記憶蘇り、昔の彼を認めぬ。

別の時、要務先に近きグラウンドキャニオンを見物に寄り、飛行機待つ間、名を呼ばれぬ。高校一年の時親しき友なり。瞬時にしてそれと判り兩者して奇遇を大笑ひに笑ふ。彼は羅府留學中にして、來訪せる妻子と共に當地に遊ぶ。彼が細君、殊の外美形に見えしは、我、日本を出て長きに互れば久方振りに間近く見る日本婦人の故ばかりにはあらず。今一度、會ひたし。

壓巻は倫敦の出來事なり。我、三十歳の頃、現地事情勉強のため派遣せられたり。一日、旅行小切手換金が爲、銀行に赴き、署名して窓口に出す。窓口嬢、顔も上げず小切手を受取り下向くまま所定の事務處理を開始。と、券面の我署名に目を留め、更に間近に見、徐ろに頭をもたげて我をしばしげと眺む。しばしの後、わあ又はきやあと、今、確とは思ひ出さざる大聲を上げ、素早く自分専用窓口の硝子をがたと下げその背後に消ゆ。

我は、今出せる小切手に不審ありやと疑ひロビーに呆然と立つ。彼、脇の扉よりそそくさと出でて傍に來て、大學の俱樂部一年後輩の何某と名乗れば、我が屬せる課外管弦樂團にてバイオリン奏者なりしを思ひ出しぬ。講義の時間よりも多きを共に過ごせる俱樂部仲間と言へども、異國にて偶偶寄りたる銀行、偶偶空き居たる窓口のその係が舊友なるはあまりの偶然。直に氣附かざるも理由ありと言ふべし。彼この時、色濃き眼鏡かけ居りたるも覚えざる一因なるべし。

聞けば、英國に來て語學勉強の途中、滞在費得むがため時間給にて銀行に勤むと。爾後、倫敦に仕事ある時は共に食事し、年賀状往來の期間あれども、今、その消息を知らず。

時に夢想す、我には偶然を招く不可思議なる能力ありと。異國にて友と邂逅すること再三に及ぶはその證左にあらずや。

また思ふ、さるべき能力ありとせば大幸運を齎すほどの偶然、何ゆゑに我に來たらざるか。毎年末に買ふジャンボ寶籤、下一桁三百圓の他、當りたることなし。十餘年以前に妻、三千圓當るを以つて我家の最高額となす。我が籤運は、未就學の頃、近隣なる商店街大賣出籤にて特等「夜の觀光バス一人分」を引き、父が膝の上より名古屋市歡樂街の夜景見物したる時を上回るものなし。

更に思ふ。生命は原子の不思議なる偶然に因り發生すとの説あり。我がこの世にあるも偶然、さしたる僥倖に遭はざるとも、現在兎も角健康にて平穩無事にあるも偶然の仕業。縱令

この程度の境遇に留まるとも、そを得たるは我が有する不可思議能力の一賜物と感謝せざるべからず。大地震に遭ひたる人あるを思へば、我のこの能力役に立たずとは言ふまじ。足るを知ることを肝要と努めて自らを慰む。

さはさり乍ら、今年の年末ジャンボこそと期待する心持なほあれ。